

茂林寺沼湿原 第2回 清掃活動

キショウブバスターズ









2026年10月3日

活動場所 Map





集合・活動のあいさつ



外来種駆除作業

茂林寺沼湿原の象徴　～カキツバタ～

「真っ青」だった 昔の茂林寺沼湿原



わしらは「アヤメ」と呼んでいたんじゃが、
むかしは湿原がカキツバタで真っ青になったもんじゃ。
それは清清しい感じでのぅ、きれいだったもんじゃ。
同じ頃、夜になるとホタルもた～くさん舞ったもんじゃよ。



カキツバタ［杜若］



※カキツバタで真っ青になった湿原
（もりん爺のあたまの中）



カキツバタが咲き乱れ、ホタルが舞った頃の湿原（昭和30年代）

茂林寺沼湿原の自然環境クライシス



かつての茂林寺沼湿原の自然環境は、群馬県の天然記念物に指定された頃と比べても、現在は様々な危機に襲われ変化してきておる。その原因には、湿原全体への水の供給不足、周辺の開発などのほか近年著しい外来種の侵入があげられとる。

湿原から絶滅してしまった植物

「絶滅」というのは代々繋がってきた命のバトンがとだえてしまうことじゃな。悲しいものじゃのぅ。



サワギキョウ［沢桔梗］



ミズトンボ［水蜻蛉］



ヌマクロボスゲ［沼黒穂菅］



株が大きくなり、谷地坊主をつくるスゲの仲間。
昔は湿原を歩くとこれにつまづいたという。

近年、見られなくなってしまった昆虫

オオモノサシトンボ



数年前まで見られたが、
近年確認されていない。

ヘイケボタル



クルマバッタ



草地の開発
により、
生息場所が
失われた。

ゴマダラチョウ



近縁の外来種
アカボシゴマ
ダラと競合し
見られなく
なった。

地域本来の生態系を脅かす外来種って何？

外来種は、人のせい



外来種の問題は、何十年も何百年も地域に暮らしていた動植物の生存が、脅かされることじゃ。外国や他の地域から侵入して来た動植物は、わしらと長年共に暮らしていた動植物たちと競合して生息の場所を奪ったり排除したりする。そして、このままでは日本中、どこでも同じ風景になって、各地の自然や風景・文化などが失われてしまうじゃろう。その土地々々にあった特有の分化や景色、人の暮らし方などが失われ、どこも同じようになってしまう。例えて言うなら、各地にあった商店街、魚屋、八百屋などがなくなり、大型スーパーマーケットだけになってしまうようなものじゃ。そこには、もはや名産物やお祭りなどの地域らしさがなくなってしまう。そんなことが自然界で起きているのが外来種問題じゃと、わしは思う。そして、もう一つ大事なことは、個々の外来種自身が悪いわけではないということ。各地で問題を起こしているほとんどの外来種は、自ら移動して来た物ではなく、人間が持ち込んだ物だということ。外来種と呼ばれるようになった当事者は、好き好んで移動して来たものではないのじゃ。すべて、人間の仕業、元をただせば人間がしたことで自然や風景、昔から地域に暮らしていた生き物に迷惑をかけているなら、人間が問題の解決につとめにゃあかん。

外来種の対策は、「検疫」

茂林寺沼湿原全体が一つの生命と考えた時、外来種は感染症のウイルスのようなものです。外来種は、湿原の自然環境を構成しバランスを取りながら維持管理している（人で言うと体の各細胞や組織のような）個々の動植物に対し、外部から侵入し健康な細胞（在来の動植物種）を排除したりその働きを損ねる病原性ウイルスに例えることができます。

県の天然記念物である茂林寺沼湿原は、現在いくつかの感染症にかかった状態にあり、対策が必要です。ウイルス性の感染症の場合は、本来感染者の自己回復能力に頼ることになり、人の場合、それを行うのが免疫細胞です。おそらく、湿原にも、これらの免疫的な機能をしている生き物がいると思いますが、現状は、そこそこ重症です。

外来種というウイルスを持ち込んだ主な原因は、人間です。ですから、何らかの形で、我々が治療をする必要があると思います。取り急ぎ、個人ですぐにできる治療法のひとつは、免疫細胞に変わって、個々の外来種を取り除く方法なのです。



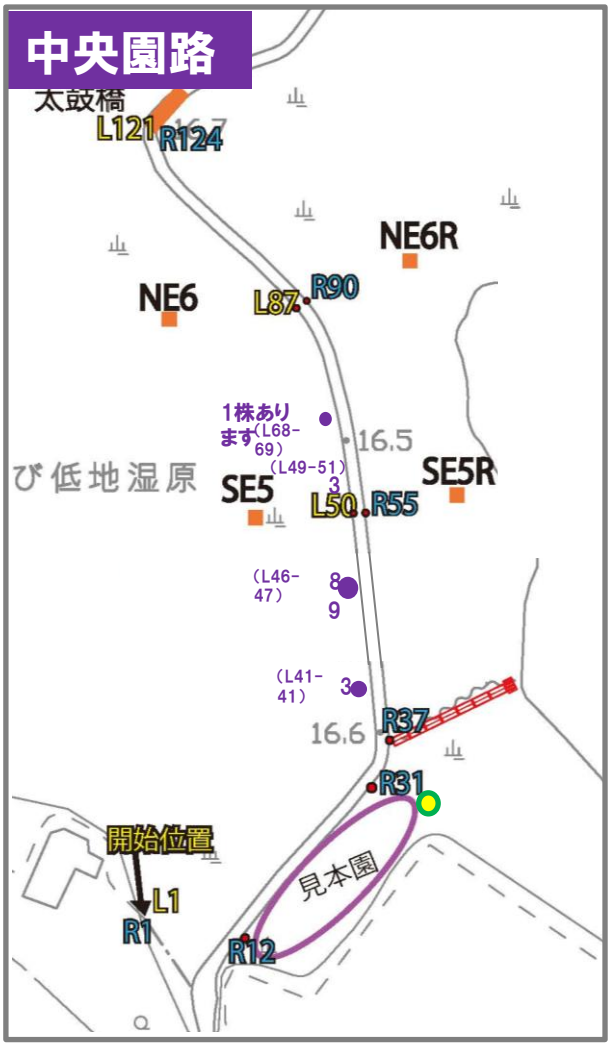
昆虫大魔王
時々、湿原を訪れる
昆虫をよく知る人？

水茂林寺沼湿原の中央園路と木道のアヤメ類の開花分布

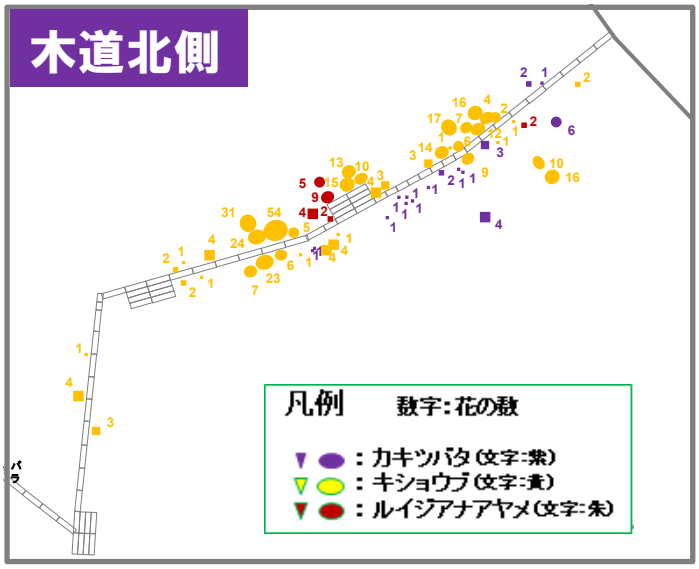
茂林寺沼湿原では、例年、開花するカキツバタや外来種のキショウブの生育状況を調査しています。
キショウブの抜き取り作業の参考にしてください。

2026年5月17日調査時の開花状況

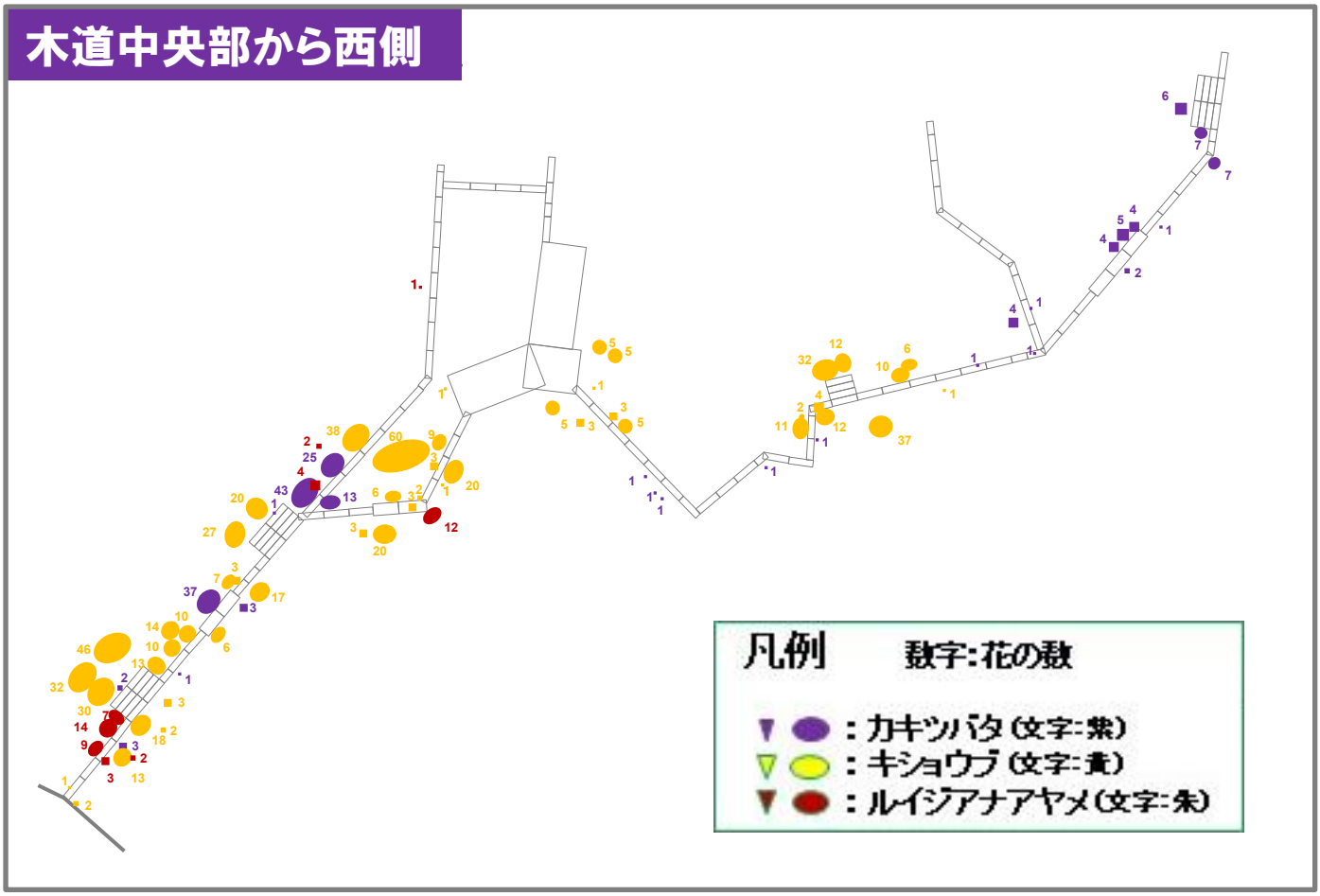
中央園路



木道北側



木道中央部から西側



駆除すべき湿原に繁茂する外来植物

環境省：重点対策外来種

セイタカアワダチソウ ［背高泡立草］

湿原の乾燥化で繁茂している

生長すると2～3mの高さに達する多年生草本。北アメリカ原産で、日本には1897年に侵入し戦後各地に広かった。
一度改変された土地を中心にいち早く侵入し乾燥にも強い。
周辺の植物の成長を抑える物質（アレロケミカル）を放出することが知られている。





たくさんの黄色い花をつけ、さまざまな昆虫が訪れる



名の通りまるで泡を立てたような多数の種子。
種子はわた毛で飛ぶ



初夏頃から、日に々々高く生長する



若い株の茎は赤紫色をしているものが多い



黄色い花を付けていない若いい株は、周辺の植物に紛れて見つけにくい



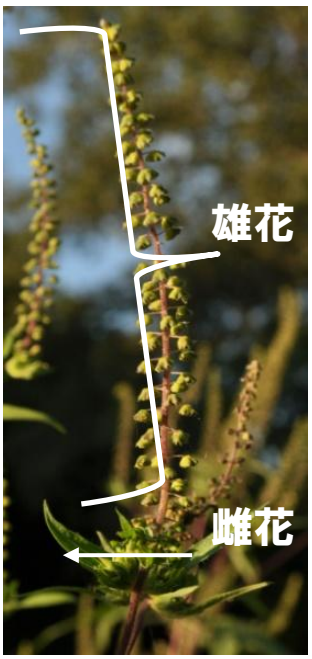
日当たりのよい場所では冬も枯れない



地下茎を横に伸ばし広がるので、群落となる

オオブタクサ　［大豚草］ 2～4mにも高くなる。一年草。





花粉は風で運ばれ、
花粉症の原因になる。



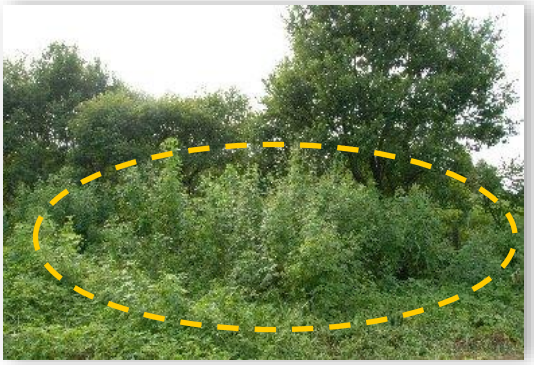
長さ5mmほどの
タネは固く、
土の中で何年も
生存できる。



幼い株の葉は
裂けない。
葉は茎に対し対に
なって付く。



少し大きくなった若い株。
裂けた葉を付ける。



大きくなると人の背丈以上に。
抜くのは重労働。
種子ができる前に抜きたい。

イヌキクイモ　［犬菊芋］





栽培種のキクイモ
と異なり、イモは
できない

マルバハッカ［丸葉薄荷］



別名アップルミント。
よい匂いがする。



細い地下茎を伸ばして
群生する。ハーブとし
て栽培されたものが野
生化している。

カキツバタをおびやかす外来の菖蒲

キショウブ[黄菖蒲]



ルイジアナアヤメ





木道沿いで競合するカキツバタとキショウブ

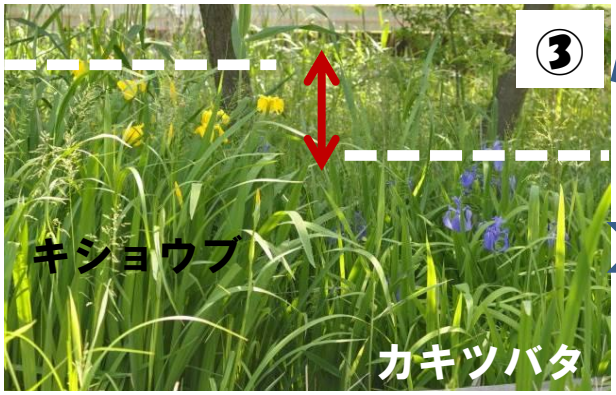
キショウブはなぜ強い？？



キショウブは寒さに強く、冬でも枯れない



冬に枯れるカキツバタとは早春の時点でこんなに差が‥



キショウブのほうが草丈が高く、大株になる





キショウブの果実はカキツバタより大きく、数も多い



その結果……

キショウブ群落に飲み込まれそうなカキツバタ(〇印)



何もしなければ‥‥一面キショウブ群落に

木道・園路沿い　アヤメの仲間見分け方

葉

葉の中央に太い脈がない。
（触ってもあまり感じない）

葉の色は薄め。



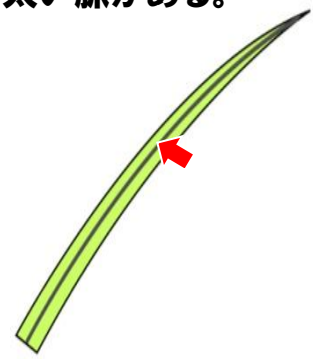
葉だけのときはカキツバタとルイジアナアヤメの区別が難しいのじゃ。

幅が狭く約3~4cm以下
⇒ **カキツバタ**

幅が太く約3~4cm以上
⇒ **ルイジアナアヤメ** 外

葉の中央にはっきりと太い脈がある。
（触るとよくわかる）

葉の色は濃いめ。



幅が狭く約２~3cm以下
⇒**ノハナショウブ**

幅が広く約 3~4cm以上
⇒ **キショウブ** 外

実



果実は上を向く。



カキツバタ
ノハナショウブ
ルイジアナアヤメ
外



果実は下～斜めに垂下がる。
（房状に数多く実る）

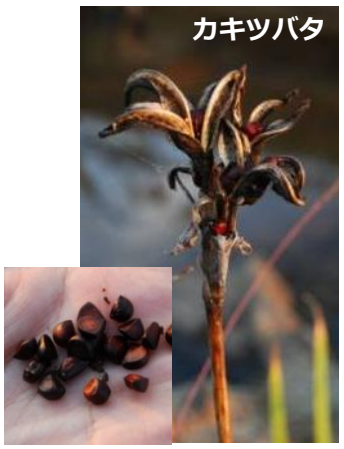


キショウブ
外

種類によって果実の形や開き方、種の色などが違う。



・果実は小さく丸みがあり、上部だけ開く
・種子は平べったい



・果実は中くらいでやや細長く、反り返って開く
・種子は角ばり、厚みがある



・果実は丸みがあり大きく、崩れるように開く
・種子は角ばるが、丸みと厚みがある

繁茂するつる植物　　在来種ですが、湿原からは除去しよう！

クズ［葛］

秋の七草で、林の縁や草原に生える。乾燥化で湿原周辺で増加している。









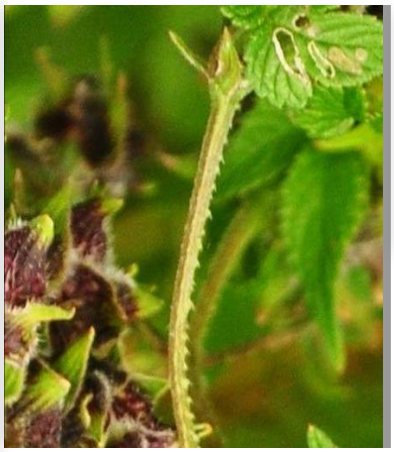
3つの丸みのある小葉が特徴。
1つの小葉は、子供の手の平程の大きさ。

葛粉を取ったほど立派な根茎ができる。

カナムグラ［鉄葎］

荒れ地に生える一年草で、四方八方に伸び、他の草を覆いつくす。







雌雄の株がある。
←雄花。
人によって花粉症になる。



雌花→
ホップに
似ている。

モミジのような、5～7つに深く裂ける葉が特徴。

茎には鋭いトゲがある。
この茎で他の草に絡みつく。

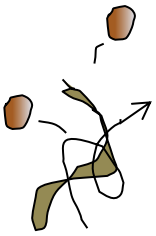
ツルマメ［蔓豆］

湿り気を好む。湿原が乾燥化したことで、湿原内に群生するようになった。









さやは熟すと皮がめくれて中の種子をはじきとばす。



クズのように、3つの小葉がある。
クズの葉よりずっと小さく、1つの小葉は親指ほどの大きさ。

大豆の原種とされる。
乾燥した湿原で繁茂。

ヘクソカズラ［屁糞蔓］



草全体にもむと臭いにおいがある。
葉は対につく。





ノブドウ［野葡萄］



果実は様々な色に熟してカラフル。
ただ甘くなく、食用にはならない。



葉は3～5つに裂ける。
形は変化がある。

カラスウリ［烏瓜］





実は卵くらいの大きさでだいだい色。

花は夜咲いて朝方にはしぼむ。



葉はシワっぽい。

アオツヅラフジ［青葛藤］









葉の形は変化がある。
葉は厚みがある。
実は青く熟す。

増加してきたハンノキの幼木



最近、木道沿いにハンノキの幼木が増えてきたのじゃ。
湿原の東側では、ハンノキの親木が枯れ始めたんじゃがのぅ。



西の木道沿いで増えているハンノキの幼木。

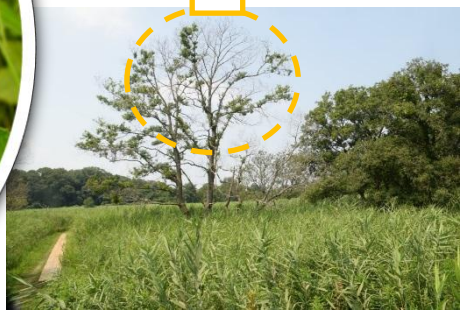


木道上に落ちたハンノキの種子。



幼木の葉。しわが強く、脈が赤みがかることが多い。





湿原の東側では枯れはじめたハンノキの親木をみかける。

いずれがヨシ？オギ？ 地味だけど僕もひと花咲かせます

ヨシ



葉が
段々につく

株立ちにならない



葉



白い
すじがない

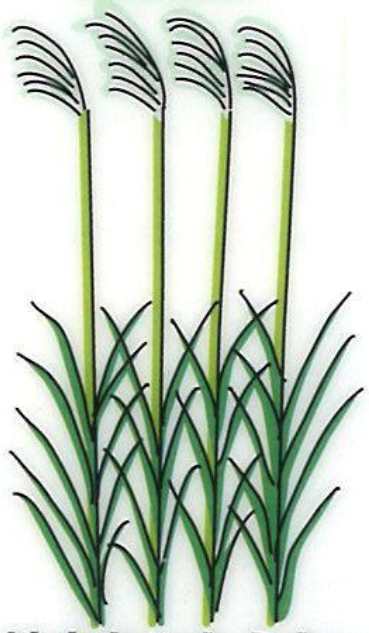


穂は薄茶色
がかる



葉鞘は無毛

オギ



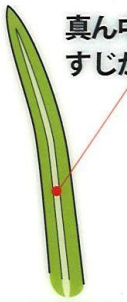
ヨシより乾
燥した場所
に生える

葉は中ほど
に集まる

株立ちにならない



葉



真ん中に白い
すじがある



穂は銀白色



葉鞘は毛がある

茂林寺沼湿原の外来動物

湿原の水域に侵入した外来種



アカミミガメ



ウシガエル



ヌマガエル



オオクチバス



ブルーギル



アメリカザリガニ

茂林寺の林に侵入した外来種



アライグマ



ハクビシン



ウスグモスズ



クビアカツヤカミキリ





アカボシゴマダラ

「茂林寺沼湿原生物調査研究会」の活動が始まっています。

2021年４月から、「茂林寺沼湿原生物調査研究会」の活動が始まりました。茂林寺沼湿原の自然に関心のある有志で、観察会などを中心とした活動をしているサークルです。毎月第３日曜日*)の午前9時茂林寺の境内に集合して開催している自由参加の活動ですので、関心のある方はご参加ください。

次回は、10月の18日（午前9:00集合）です。活動を通じて、湿原の植物図鑑や昆虫図鑑を作成していきたいと思っています。





*) 活動日は天候等の都合で変更（順延）する場合がありますので、ご注意ください。（「もりん爺のブログ」）にて確認ができます。



「もりん爺のブログ」では、茂林寺沼湿原の近況やイベントん情報を発信しています。調査研究会の情報も上がっています。

http://morinjii.hatenablog.com/

もりんじい　検索



掘り下げ試験区のイトイヌヒゲ





資料監修：青木雅夫　　資料編集：㈱地球工作所
主催：館林市教育委員会文化振興課